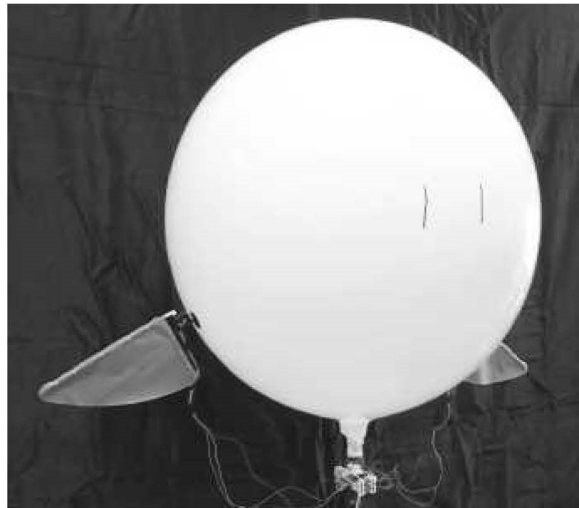


# 音拾える空飛ぶロボ

## 作製簡単子ども向け教材に

舞鶴高専

舞鶴工業高等専門学校の若林勇太講師と松本壮太専攻科生は、飛行型ソーシャルロボット「フーボ」を開発した。バルーンの浮力で重さを釣り合わせ、羽根でパタパタと空中を飛ぶ。音源の方向を推定する機能を設けた。無個性で簡素なデザインのためユーザーが解積する余地が大きい。簡単に組み立てられ、子どもがフーボの顔を



描くことで愛着を持たせやすい。バルーンに制御を担うコアと2枚の羽根を23gに抑えた。羽根はプラスチック棒にナイロン生地を広く、根元のサーボモーターで羽

取り付けて構成する。バルーンの浮力は最大25g。そこで総重量を23gに抑えた。羽根は

▲……………飛行型ソーシャルロボ「フーボ」(舞鶴高専提供)

空中を飛ぶため存在感があり、オモチャのように忘れられない。組み立て作業は簡素化し、普通の人々が作れる。子ども向けのロボット教材になるほか、ユーザーが自身で作る行為を通して愛着を高められると期待される。(電子版に動画)

ばたく。翼の長さは15センチで両羽根を広げると75センチほどになる。コアは電池や制御回路に加えて、4方向にマイクを並べてマイクロホンアレイを構成した。現在の音源方向の推定分解能は90度。白色雑音の推定精度は100%だが、人の声は67%程度だった。